



本町だより

横浜市立本町小学校 令和8年 4月 30日 発行 第638号

「本町小学校の宝物」

校長 小正 和彦

4月7日の始業式・入学式から3週間が経ちました。毎日の登下校時の校門での挨拶や、日頃の授業の様子を見ながらの校内回りを通して、少しずつ子どもたちの顔を覚えることができてきました。670名近くの子を覚えることは、まだまだ時間を要すると思いますが、顔だけでなく、少しでも一人ひとりのよさを知りたいと思っています。

子どもたちは、挨拶ひとつをとってもさまざまです。満面の笑みを浮かべながら挨拶をする子、元気いっぱいの声で挨拶をする子、優しく微笑むように会釈してくれる子、目は合わせなくても口元でははっきりと言ってくれる子など。中には、友達との話に夢中で素通りする子や、反応せずに通り過ぎる子もいますが、きっと心の中では何かを思っているのだと思います。相手にとって気持ちのよい挨拶はとても素敵だと思います。それでも、その仕方はそれぞれでよいと思います。私にとっては、そこに一人ひとりの個性が表れており、その子を知るきっかけ、入口になっています。

集団としてのよさを感じる機会にも出会いました。4月17日に行われた「1年生を迎える会」では、初めて全校児童が集まりました。1年生が本町小学校での新しい生活を安心して過ごせるようにという思いを込めて、2年生から6年生が歓迎の気持ちや、これからの学校生活について紹介しました。学年ごとに全員で、歌やクイズ、寸劇など、それぞれ工夫を凝らした内容でした。ドキドキの1年生が安心して過ごせるようにという相手意識をしっかりともった、とても素敵な時間でした。1年生も、670名近い全校児童が集まった様子に驚きながらも、楽しんでいる様子が印象的でした。

実はこのとき、私も「ドキドキの1年生」の一人として、初めて全校児童が集まった様子を見ることができました。文字どおり体育館いっぱいに集まった子どもたちは、学年としても、そして全校としても、その時間の目的をしっかりと意識した素晴らしい姿でした。歴史と伝統の中で、本町小学校には「宝物」がたくさんあると聞いていますが、この子どもたちこそが一番の宝物であると感じました。多様な子どもたちが、ともに思いをひとつにして協力して取り組む姿は、世界規模で社会課題が山積する中であって、まさに宝物だと思えます。このよさを、これからも伸ばしていける学校でありたいと思います。

私は前任校、前前任校において、約15年間「持続可能な社会の創り手の育成」をテーマに学校運営に取り組んでまいりました。それは、一人ひとりの子どもにとっての幸せは、決してその子一人だけで獲得できるものではなく、ともに生きる人々や環境との関わりの中で得られるものだと考えているからです。自分の娘の成長の様子を通して、その思いは確信へと変わりました。この本町小学校での生活を通して、これからのよりよい社会を創り、担っていく子どもたちが育つことを願っています。